



可愛く作品を撮影する **7つのテクニック**



Petit Amie mamie





- 1 撮影する主役を決める
- 2 主役をひきたてる小物を探す
- 3 自然光を利用する
- 4 下地を使う
- 5 レフ板使う
- 6 余白も利用
- 7 色の多色づかいをしない





それぞれのポイントを説明して参りますね





1 撮影する主役を決める

主役をきめ、どこにピントを合わせたいのか決めましょう。
一番見せたい作品の魅力を考えましょう。





可愛い作品が沢山あると
あれもこれも撮りたくなりますが

伝えたいことが伝わりません。

必ず主役、どこにピントを
合わせたいのかを決めます。

その作品の素敵ポイントを決めましょう





脇役を主役♡

あえて脇役である資材を主役にして
作品の魅力を伝えます。

資材を主役に、後ろに完成作品を
ボカして撮影します。



例えば、運動会の写真を撮るとします。

運動会というイベントを撮影するのか

自分の子供のゴールシーンを撮影するのか

それによって伝わり方が異なってきますよね。

作品の魅力を伝えたいのであればゴールシーンの撮影が必要です





縦写真・横写真、使う目的に
(SNS/HP/動画) 合わせて
撮影します。

縦写真の方が、縦のラインの
小さな範囲だけを
スタイリングすればいいという
メリットがあります。

今の時代は、両方撮っておく
ことをお勧めします





2 主役をひきたてる小物を スタイリングに使う



スタイリングするための小物を考えましょう

お花・グリーン・お皿・トレイ・花瓶・額・キャンドル・布など





撮影小物 グリーン

グリーンが少し入ると
主役のアフタヌーンティーが
引き立ちます。

本物のグリーンが理想ですが、
フェイクグリーンでもOKです。





撮影小物 陶器のお皿

1枚よりは2枚重ねて使うと
さらに効果的なことがあります。

陶器のお皿の輝きが作品を
引き立てます。

私はお皿にデコラティブな
彫りがあるものが
お気に入りです。





撮影小物 関連性

撮影小物は、テイスト・色・
関連性を考えて準備します。

今回、可愛いハサミが主役です。

関連する 糸巻き・まち針・リネンの布
を準備しました。



私がよく使うプロップス

お皿やティーセット

お菓子の空き箱

洋書

グリーン

香水などの瓶

リネンの布

ハルモニア ホワイトクラウンシリーズ

ラデュレ・ボワシエなど

アマゾンなど

アジアンタム・アイビー

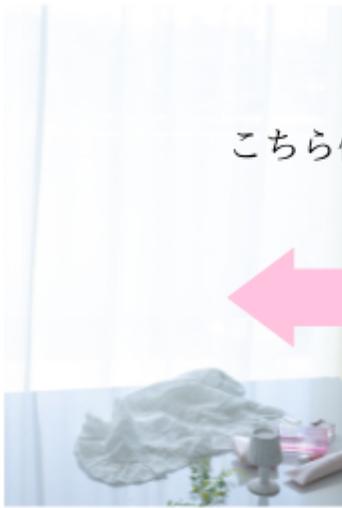




3 自然光をたっぷり取り入れる



自然光とは、太陽の光です。
蛍光灯・電灯の下で撮影するのはやめましょう。



こちら側から撮影



窓際の光がたっぷり入ってくる場所で撮影
ただし直射日光はNG
レースのカーテン越しの光のそばで撮影
お部屋の電気は消す
1日で一番柔らかい光が入ってくる時間を探す



撮影したものがこちら





4 下地を使う

作品の下に敷くものを準備します。

小物・背景以上に大切なアイテムです。





- ・背景ボード
- ・布
- ・紙
- ・オーガンジー
- ・リネン
- ・お皿

下に敷くもので印象が変わります。
スタイリングもしやすくなります。





不織布ペーパーを使う

下地には、ピンク色の不織布のラッピングペーパーを使っています

ピンク色を使うことで可愛らしい柔らかい世界を演出しています。





アンティークレース・ペーパーを使う

アンティーク缶のミニチュアクッキーなので
アンティークなレースを敷いてみました。

アンティークの紙を敷いてもいいかも。





グレーの背景ボードを使う

白いタオルのふわふわ感を出したかったので白を引き立たせるために濃いグレーを下地にしてみました。





背景ボード

背景ボード 🔍 で検索

ご自身の作品のサイズに合わせてご購入くださいね。
大きい方が使い勝手はいいのでお勧めです。





窓

窓フォト



で検索

窓も使い勝手のいいアイテムになります。

窓枠だけ購入できるのでチェックしてみてくださいね。

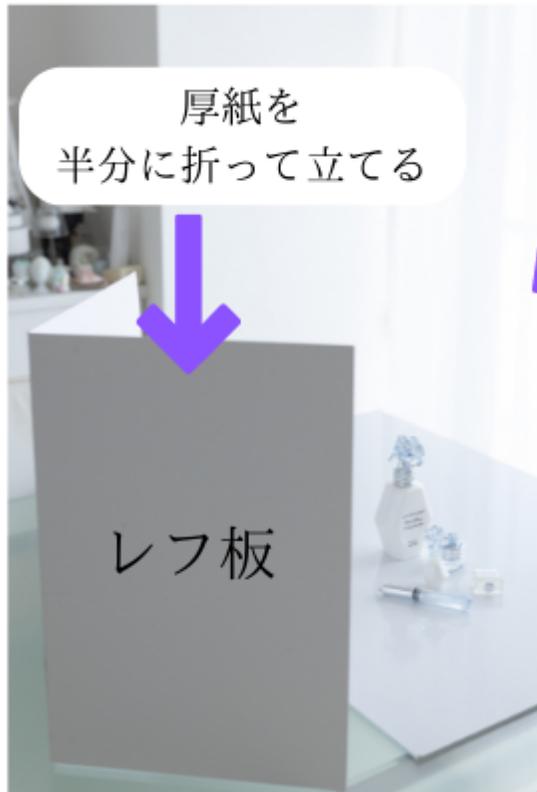




5 レフ板を使う



厚紙を
半分に折って立てる



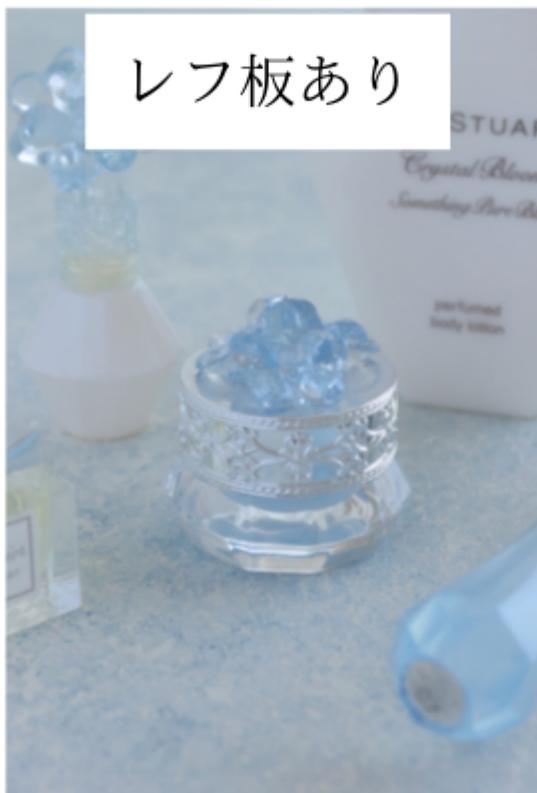
レフ板

光の方向

光の方向とは逆に白い厚紙を
おいて被写体を明るく照らします。



レフ板あり



レフ板なし





6 余白も作品の一部





余白も作品の一部

作品自体に世界観をすでに持っている場合は、あえて何も撮影小物を使いません。

空いているスペースにクレジット（フォント）をデザインすることでお洒落感を演出できます





余白も作品の一部

画面いっぱいに撮影すると
窮屈な感じがすることがあります。

余白をとって撮影してみることも
チャレンジしてみてくださいね。





7 作品の色にこだわる



ホワイトアンティークなビーズ刺繍

Cotton berry



この写真は、〇〇色と言える
色使いをすると
全体にまとまり感が生まれます。

差し色も入れて2色～3色に
までするといいです。





写真に正解はありません。
あるとしたらピンボケ写真です。
ピンボケ写真だと伝えたいことが
伝わらないからです。

この【可愛く撮影する7つのテクニック】を
いつも使って

ミニチュアやハンドメイド作家さんの作品を
よく撮影しています。

あなたのご参考になりますように

